

---

平成20年 第3回定例会(9月)

所 信 表 明

富士見市長 星 野 信 吾

---

本日は、平成20年第3回定例会を招集申し上げましたところ、議員の皆様におかれましては、早朝よりご出席いただきまして厚く御礼申し上げます。

今議会は、私にとりまして市長就任後、初めての定例会でございます。議員各位におかれましては、どうぞご理解とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。また、新たに2名の方が市議会議員として誕生され、今議会に臨まれておられますことにつきまして、心からお祝い申し上げますとともに、市政発展のためご尽力賜りますようお願いいたします。

さて、私は、市長就任後、一月余りを経過したところでございますが、今、様々な行政課題に向き合うことを通して、改めてその責任の重さを痛感いたしております。同時に、市政改革への市民の熱い期待に応えるために、これからの市政運営の舵取りに全力で邁進していく決意を新たにしているところでございます。

それでは、本定例会の提出議案のご説明に先立ちまして、市政執行に当たっての私の所信を4点にわたって述べさせていただきます、今後の議員各位のご理解とご協力を賜りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

まず、1点目でございますが、富士見市の発展の道筋を明らかにすることです。

富士見市はこれまで首都30キロ圏に位置する地の利から急速な人口増加と土地区画整理事業に代表される、まちづくりを進めてきた結果、主に個人市民税と固定資産税の増収、地方交付税の順調な伸びにより、都市基盤整備はもちろん、福祉や教育など市民生活に不可欠な各種施策の充実を図ることが出来ました。

しかし、近年、これまで富士見市の成長を支えてきたこれらの原動力にいよいよ限界が見えてまいりました。人口は急増時代を過ぎ、ほぼ横ばいが続いており、このままでは人口減少時代を迎えるのも時間の問題といえる状況となってまいりました。

このように人口が停滞する中で65歳以上の高齢化率が、年率1%を超える勢いで増え続ける一方、その多くが納税者と重なる生産年齢人口の減少が続いており、個人市民税への依存に特化している本市の財政を危ういものにしております。また、地方交付税は国による大幅な削減により、ピーク時と比べて半分以下となっております。

まちづくりの面では、多くの方々のご労苦により勝瀬原の土地区画整理事業もいよいよ最終段階を迎えておりますが、鶴瀬駅周辺のまちづくりは、事業計画どおりにはすすんでおりません。

しかも、新たな産業振興による雇用と財政基盤の強化を図ることが期待されていたまちづくりが、先行きの目途が立たない状態となるなど、本市の将来像が描ききれれておりません。

本市の第4次基本構想も2年余りを残すのみとなっておりますが、富士見市が自立した都市として、これからの超高齢社会の到来に備え、しっかりとしたまちづくりを推進して、市民生活の暮らしを支えられる財政基盤を確立していくことの必要性を痛感しております。

しかし、富士見市は足元を見れば、今年の6月から渋谷へ直結する東京メトロ副都心線の東武東上線への乗り入れや、来年8月に無料化を予定している富士見・川越有料道路など、富士見市の潜在的な価値はますます向上しております。

私は、こうしたポテンシャルを生かし、富士見市の均衡ある成長と発展を可能とする環境は十分にあると思います。

2点目は行財政改革の推進であります。

財政健全化法に基づく指標の積算と公表につきましては、監査委員の意見をいただき本定例会に報告をおこなっております。

幸い富士見市は健全化基準に抵触いたしてはおりませんが、実際には財政状況にゆとりが無い状態で、約468億円という負債を抱えております。

こうしたことから私は、職員の大規模な削減や施策の見直しなどを徹底して行い、次の世代である子供たちにツケをまわさないということを申し上げてまいりました。

今後、一つ一つの事業について、本当に市が公的に行わなければならないこと、民間でやれること、市民のみなさんに主体的に行っていただくこと、市民と市の協働でやれることなど、きちんと仕分けを行い、限られた財源の中で本当に必要な施策を充実するという、施策の選択と集中を行っていかねば財政が持たない状況といえます。

そのために、まず、私自身が先頭を切って範を示すという意味からも、今定例会には市長給料の30%引き下げについてご提案申し上げるとともに、環境問題にも配慮して4300CCの黒塗りの市長専用車を廃止し、エコカーを使用することといたしました。また、私のマニフェストにあります「棚卸し」についても現在、本市ですでに業務仕分けに取り組んでいるという現状を踏まえ、職員が出来るところは職員が行うという考えで現在、整理を行っております。

今後、必要があれば予算を計上し、改めて取り組んでまいりたいと考えております。

このように行財政改革による行政運営の効率化は不可欠となっておりますが、歳出の抑制だけでは富士見市の未来は見えてまいりませんし、

市民の願いに十分に応えられるものでもありません。行財政改革は単に、収支の帳尻を合わせるだけのものでもありません。市役所は市民にとって、「役に立つところ」でなくてはなりません、そのための不断の努力を行うことが真の行財政改革ではないでしょうか。具体的にいくつか申し上げますと、サービス業として市民から支持され、愛される市役所づくりに向けた休日開庁の実施や窓口のワンストップサービスの導入。市民に信頼される行政運営を進めていくために、政策決定過程や予算編成過程の公開へ向けての効果的な実施方法の検討。情報の公開や共有化のもとに、市民との直接対話による市民にとって納得度の高いまちづくりの推進。競争の原理がより一層発揮されるよう一般競争入札の実質的な拡充。談合・あつ旋防止のため「職員倫理条例」「政治倫理条例」「公益通報者保護条例」の制定、民間人を登用した「入札監視委員会」の設置に向けた検討など、やるべき課題は数多くあります。

3点目は職員の人材育成であります。

これからの職員には、市民が市政に対して求めているニーズや時代の要請を機敏に感じ取り、必要かつ適切な施策の企画立案について十分な議論を行い、実施していく能力が求められております。しかし、庁内では、度重なる予算の削減で、積極的に知恵を絞って施策展開していこうとする気迫が薄れ、閉塞感が漂っている部分も見受けられるような気が

いたします。

直接市民と接し、日ごろから問題・課題を肌で感じている現場の職員の声が組織の中で、きちんと伝えられ、一人一人の職員の能力が最大限に発揮出来るようにしてまいりたいと思います。

また、現在、市職員は626人ですが、今後4年間で定年退職者は、105人が予定されており、本市の財政状況から大幅な人員削減は避けられない状況であります。こうした中で、これまで重要な職責を果たしてこられた多くの職員が市役所を去っていくことになり、人材育成は急務となっております。そのために、働き甲斐と意欲の持てる公正公平な人事システムの確立と後継者となる若手職員の育成や女性職員の登用、計画的な職員の新規採用など、人材育成の制度、仕組みをつくってまいりたいと考えています。

4点目は、市政の懸案事項に適切に対処することです。

私は先ほど、市長就任後に、様々な行政課題に向き合うことを通して、改めてその責任の重さを痛感したと申し上げました。議員各位もご承知のように、富士見市は電算システムの移行や山室・勝瀬開発など市行政にとって大変大きな案件に直面しております。これらの問題は本来、めまぐるしく変化する社会の中で、富士見市の将来を見据え、積極的に取り組まれてきた行政課題であります。当然そこには経験したことの

ない複雑な問題があったと思います。そうした様々な条件の中で、慎重で的確な仕事の進め方が求められていたと思います。

しかし、現状は多くの困難に直面しております。私はこれらの困難に私自身が全力で取り組むとともに、これまで以上に市の職員がその能力を生かし、粘り強く物事に対処していかなければならないと思います。その上で議会と執行部がしっかりと連携、協力していくことが出来れば、必ず展望が開けるものと確信しております。

以上、4点にわたって申し上げましたが、現下の社会経済状況はいわゆるサブプライムローン問題や原油、原材料費の高騰の影響を受け、物価上昇、消費の落ち込み、企業倒産の増加など、より厳しさを増してきております。また、今後の税収見通しも予断を許さないものとなっており、すでに国の来年度予算の概算要求において、地方交付税の減額も報道されております。

このような中で市民生活も大変厳しい状況を迎えており、地方自治体においては、地方分権の拡大や少子高齢化等による行政需要の増加に対応しながら、市民福祉の向上と分権時代にふさわしい自主自立のまちづくりに向けた新しい行政運営が求められております。

私は、議員在職中に感じていたことや考えていたことを踏まえて、将来の子どもたちのためのまちづくりに向けて、改革プラン・マニフェ

スト「富士見市元気計画」をまとめ、市民の皆さんにお示ししてまいりました。

この改革プランは、富士見市を様々な視点から活力あふれるまちに発展させていくことを目指しています。その根幹を成すものは、

1 市政にしがらみをつくらないこと、2 改革への強い決意とともに常に具体的な手立てを持って進むこと、そして、3 将来の子どもたちに不要不急な支出によるツケをまわさないことであります。

私は、富士見市を元気なまちにするため、これらを踏まえて、常に市民及び市職員の先頭に立ち、率先垂範してまいります。富士見市は、様々な社会資源の活用と多くの方々の知恵を生かすことが出来れば、さらに、住み良い魅力あるまちへと着実に進化・発展させていく可能性を十分持っていると思っております。今後、議員の皆様のご政策提言や市民のご意見を踏まえ、具体的な施策へとつなげ、市民が誇れる富士見市をともに築いてまいりたいと考えております。

最後に、議員各位並びに市民の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。私の所信表明とさせていただきます。